

河原崎よし

静岡県議会 6 月定例会

去る6月24日、静岡県議会6月定例会において、一般質問を行いました。今回は、その報告をさせていただきます。

*大井川鐵道本線の全線復旧に向けた取組

大井川鐵道本線は、令和4年9月の台風15号による災害で複数の箇所が崩壊するなどして寸断され、運行停止に追い込まれました。その後、関係者のご努力で川根温泉笹間渡駅までの区間は復旧しましたが、そこから奥の千頭駅までの区間は現在も不通となっています。これは、鉄道に関する国の補助メニューが十分に用意されていないことでもあります。この災害前のコロナ禍の影響で大井川鐵道の経営力が極端に弱っていたことも影響しています。また、大井川鐵道が、公共交通より利益の9割以上を観光に依存するという特殊な鉄道であることも対応を難しくしていました。

そんな中で、私は、被災直後から県当局に対し、「これは公共交通の問題以上に地域づくりの問題そのものだ。このため、直接の担当である交通基盤部ばかりでなく、全庁的な視野に立って対応策を考えていただきたい。」と何度も要請してきました。その甲斐あってか、当局サイドでは、当時の森副知事や知事直轄組織が中心になって大井川鐵道の救済策の取りまとめに当たってください、ようやく今年3月になって今後のスキームが固まり、今年度から4年間で全線復旧を目指すこととなりました。流域の一部関係者の理解が得られず、時間がかかってしまったようですが、県の担当者が頑張ってくれたそうです。

この質問をやろうと思ったのは、要請に応じて頑張ってくれた県職員への感謝の気持ちを公式の場で伝えるべきと考えたからです。それと合わせて、全線復旧に向けて、現状と今後の取り組みについて聞きました。それについての答弁です。

「全線復旧には、国の補助制度を活用しても大井川鐵道に8億円を超える費用負担が発生し、その調達が困難な状況だった。このため、この鉄道が地域に不可欠な資源であるとの認識の下、鉄道事業者の最大限の努力を前提に、県及び沿線市町が支援することで合意した。

被災から約3年が経過していることから、復旧に向け、まずは現地の最新の状況を把握することとし、本年5月に鉄道事業者が再調査を実施した。県は、国や沿線市町と調査に同行し、被災箇所の現状を関係者間で共有するとともに、復旧の重要性を再認識した。

今後は、鉄道事業者から提出される具体的な工事工程や資材調達、人員確保などの施工体制を確認した上で、関係者間で支援の時期や金額などについて協議し、合意内容に基づいて、全線復旧に向けた支援を行っていく。」

工事が完了するまでは何があるかわかりませんので、引き続き支援を行っていきたいと考えています。また、国・県・流域市町が大井川鐵道を支援するのは、この地域の観光にとって欠かせない存在という意味合いが最も大きいと思います。観光は、静岡県にとって成長が見込める数少ない分野の一つです。このため、県の立場でも広域的な視点で観光施策を充実させ、県経済の発展を図るよう求めました。

*浜松・遠州灘海浜公園の野球場問題

浜松の県営野球場については、ここ数年、県議会において重要な問題として検討されてきましたし、昨年の県知事選挙においても争点の一つとなりました。そんな中、今年1月になって、令和5年度に県が民間事業者に発注して行った調査報告書の存在が明らかになりました。「遠州灘海浜公園（篠原地区）官民連携導入可能性調査業務委託 報告書」というのが、その正式名称になります。

これについては、本年2月定例会で他の議員が取り上げ、ドーム型とすることに強く反対するという意見が表明されました。確かに、ドーム型とするのは問題ですし、最近は野球以外のスポーツもできるような多目的スタジ



アムにするべきというように際限なく話が大きくなってしまいう状況は、異常と言っていいでしょう。ただ、これを読んで、私が最も重要と感じていたのは、「遠州灘海浜公園は野球場の適地ではない」ということです。

この報告書の内容は、かいつまんで言いますと、「建設費が膨大で、特にドーム型とした場合には、2年前の時点で、すでに周辺整備を含めて510億円から580億円に上り、造ってもプロ野球やコンサートなどのイベントの開催は期待できない、稼働率などから建設コストの回収は難しい、維持管理費も膨大となる」と言ったものです。それからすれば、ドームであるかないかに関わらず、不便で使い勝手が悪く、利用が見込めない施設をつくらうとしていることになります。ですから、私はこの事業を「やるべきではないものというよりもやってはいけないもの」と表現し、「一円も無駄にしない行政を標榜する知事の政治姿勢とは相容れないものではないか」と迫りました。これに対する鈴木知事本人の答弁です。



「遠州灘海浜公園の野球場については、野球場単体ではなく、環境と調和した公園周辺のまちづくりと一体的に捉え、周辺の施設と併せて、様々な機能を複合した集客力の高い総合的な施設とすることが理想であると考えている。

令和5年度の調査報告書では、民間事業者から議員ご指摘のような意見もあったが、整備自体については複数の事業者から関心が寄せられた。

その上で、整備に当たっては、物価高騰や人手不足等の社会情勢の中、民間活力を最大限取り入れ、稼働率や収益性の向上と財政負担の軽減を図ることが極めて重要であり、いかに民間投資を呼び込めるかが鍵になると考えている。

こうした考えの下、本年1月、県と浜松市で構成する遠州灘海浜公園利活用推進協議会を設置し、公園を含めた全体的な利活用の構想と、県・市・民間の役割分担や費用負担等について検討を進めているところだ。

6月12日には第2回協議会を開催し、民間のノウハウや投資を活かしたアイデアを幅広く求めるための公募方針などをまとめた。6月定例会の建設委員会でその内容を議論していただき、速やかにアイデアを公募する。

その後、いただいた提案を基に利活用構想等を複数策定し、実現性・具体性を評価した上で、概算事業費・収支見込み・経済波及効果等も踏まえ、最適な野球場の規模・構造を絞り込んでいく。」

浜松の市営野球場の閉鎖に伴い、遠州灘海浜公園に県営野球場を整備しようという話が出てきたのは、平成27年頃と聞いていますが、そもそも市営野球場の代わりに県営野球場というのは変な話ですし、ましてや浜松市は政令指定都市ですから、自力で市営野球場の建設を考えるべきものでしょう。さらに、この公園の近くの海岸がアカウミガメの産卵場所であることがわかると、建設場所を変更するのではなく、ドーム型にするという訳のわからない方向に話が進み、現在に至っています。

浜松かどうかは別にして、県西部に県営野球場を整備することについては賛成ですし、遠州灘海浜公園を整備することについても賛成です。しかし、この二つは本来別の問題です。この公園は近くで大きな風が揚がるほど風の強い場所です。また、海に近いことから、潮風で金属が錆びてしまうため、スプリングラーなど塩分を洗い流す設備を設置する必要がある、それだけランニングコストは上がってしまいます。同じ理由で、千葉ロッテマリンスタジアムは内陸に移転することになっています。さらに、アカウミガメの問題や津波浸水地域という問題もあります。こうしたことから、遠州灘海浜公園は野球場をつくることに向いた場所ではないのです。

鈴木知事が就任して一年余りが経過し、浜松の野球場を取り巻く環境にも変化が見え始めています。公共施設整備全体について、見直しの方針が示される中で、この野球場もその候補の一つに挙げられています。最近では、県立中央図書館は財源不足となるトラブルを受けて白紙の状態から見直すことが避けられなくなっています。人件費・資材費などの高騰を受けて、大型公共施設を当初の計画通りに整備するのが困難になっている状況を契機として、浜松の県営野球場問題も原点に立ち返って考えるべき、というのが今回の質問の趣旨でしたが、質問時間が足りなくなり、本会議においては全てを伝えることができませんでした。言い残した部分については、所属する建設委員会の審査において、最後まで伝えたいところです。

ただ、議会の中には、「これまで遠州灘海浜公園を前提に議論が進められてきたのだから、その方針は維持すべき」という意見もあります。最終的な議論の収まりどころはまだ見えませんが、自分は信ずるところを訴え続けたいと思っています。

なお、このほかに、「スタートアップ支援」「茶業に関する国内市場の開拓と生産環境の整理」についても質問しました。今回の質問に関心のある方は、静岡県議会のホームページで動画配信されていますので、ぜひご覧ください。

みなさまのご意見ご要望をお寄せください。



河原崎きよし プロフィール

- (略歴)
- 昭和39年2月 島田市生まれ
 - 市内公立小中学校、藤枝東高校、早稲田大学政治経済学部を卒業
 - 大石千八代議士秘書を経て、平成9年4月島田市議会議員初当選
 - 議長、監査委員等歴任
 - 平成27年4月 静岡県議会議員に初当選
 - 静岡県議会
 - 令和2年度 文化観光委員長、令和3年度 総務委員長を歴任
 - 令和5年度 自由民主党静岡県支部連合会政務調査会長

- (所属)
- 全国災害ボランティア議員連盟理事
 - 防災士 (日本防災士機構)・ふじのくに防災士
 - ふじのくに災害ボランティアコーディネーター
 - 日本自治創造学会・構想日本会員
 - 志太榛原バスケットボール協会会長
 - 島田市バスケットボール協会会長

連絡先

(事務所)
〒427-0053
静岡県島田市御飯屋町 8855-2
TEL : 0547-36-5700
FAX : 0547-36-5705
E-mail : kawarazaki@thn.ne.jp